

2020年
暦年

県内景況・確報

◎概況 県内景況は、新型コロナウイルス感染症の影響拡大により、厳しい状況にある。

●2020年暦年 おきぎん「カトレア」景況図●

県内景況



やや悪い

個人消費



やや悪い

建設関連



ふつう

観光関連



悪い

企業倒産



やや良い

雇用状況



やや悪い

2020年暦年の県内景況は、**個人消費関連**では、スーパー売上高は、全店ベースは前年を上回り、既存店ベースは前年並みとなりました。百貨店売上高は新型コロナウイルス感染症の影響拡大により、前年を下回りました。耐久消費財である家電卸出荷額は、前年の消費税増税前の駆け込み需要の反動などから、前年を下回りました。新車販売台数は、自家用車需要、レンタカー需要の減少などにより、前年を下回りました。

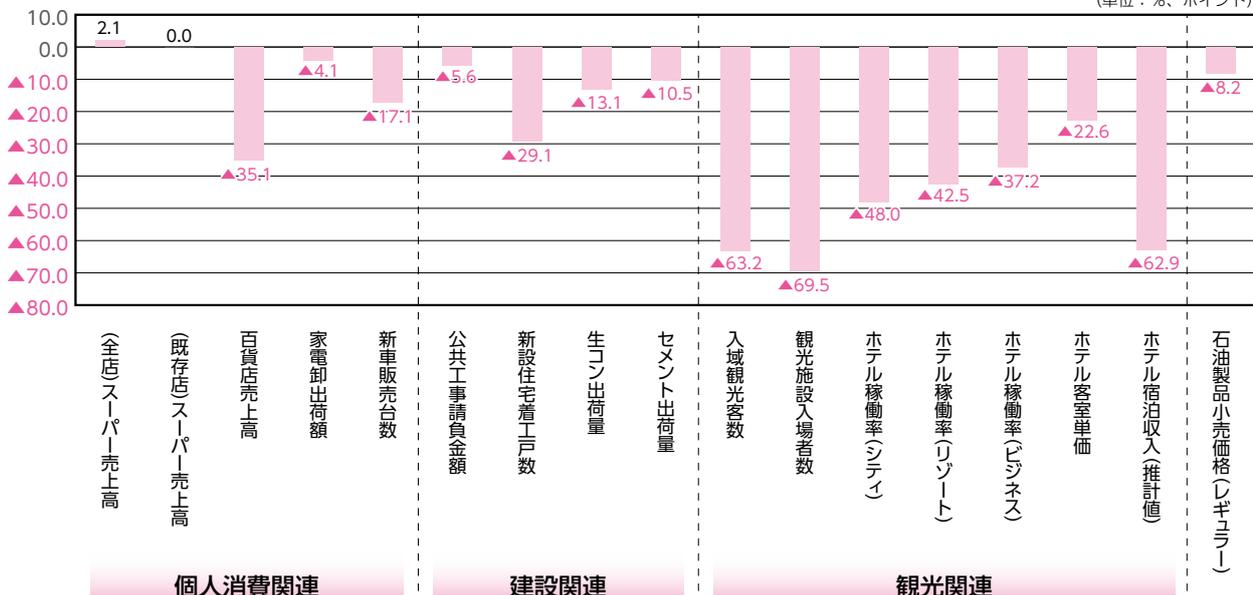
建設関連では、公共工事請負金額は3年連続で前年を下回りました。新設住宅着工戸数は2年連続で前年を下回り、建設資材である生コン、セメントはともに前年を下回りました。

観光関連では、入域観光客数は9年ぶりに前年を下回り、観光施設入場者数は前年を下回りました。ホテル稼働率はシティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルのすべてで前年を下回りました。ホテル客室単価は前年を下回り、宿泊収入（推計値）は下回りました。

このような状況に鑑みて、**建設関連は弱含みがみられる中、個人消費および観光関連は新型コロナウイルス感染症の影響拡大により厳しい状況にあることから、「県内景況は厳しい状況にある」と景気判断を**しました。

主要景気指標前年同期比

(単位：％、ポイント)





個人消費



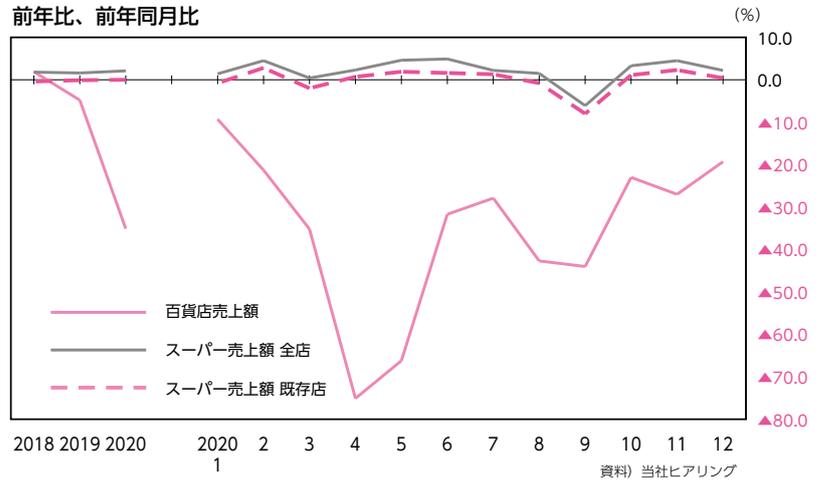
(やや悪い)

① スーパー・百貨店売上高…スーパー売上高は、全店ベースで前年を上回り、既存店ベースは、前年並みとなる。百貨店売上高は前年を大きく下回る。

2020年1-12月期の個人消費関連は、スーパー売上高が「全店ベース（前年比2.1%増）」は、新規出店効果や、新型コロナウイルス感染症の影響拡大により、巣ごもり需要が増加したことなどから、前年を上回りました。品目別では、「衣料品（同16.0%減）」が減少したものの、ウェイトの高い「食料品（同4.3%増）」や、家電を含む「家庭用品（同0.2%増）」は前年を上回りました。

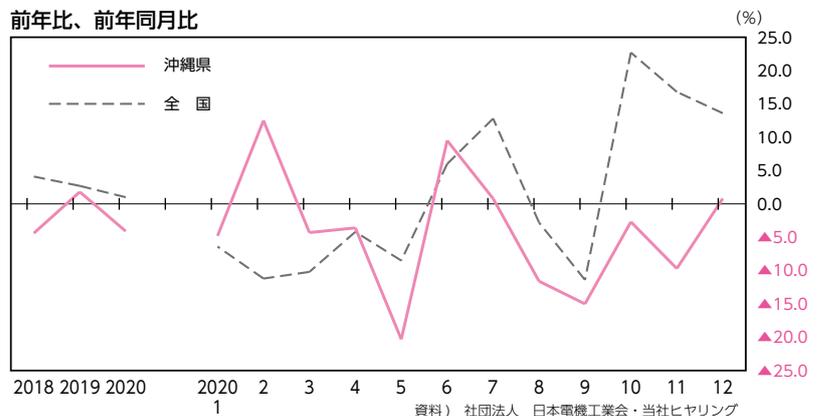
「**既存店ベース（同0.0%）**」は、前年並みとなりました。（以下、既存店ベース）品目別では、ウェイトの高い「食料品（同2.7%増）」は、新型コロナウイルス感染症の影響拡大による巣ごもり需要などから、全般的に売上が伸び、前年を上回りました。一方、「家庭用品（同3.9%減）」は、マスク等の衛生用品の需要増加や、定額給付金支給による家電の一時的な需要増加がみられたものの、インバウンド需要の減少や、前年の消費税増税前の駆け込み需要の反動などにより、前年を下回りました。「衣料品（同18.8%減）」は、新型コロナウイルス感染症の影響拡大により、外出自粛や不要不急の買い物を控える動きが見られたことなどから、前年を下回りました。

百貨店売上高は、新型コロナウイルス感染症の影響拡大により、休業要請、インバウンド需要の減少、外出自粛による来店客数の減少などから、前年を大きく下回りました（同35.1%減）。内訳をみると、ウェイトの高い「衣料品（同36.9%減）」は、来店客数の減少や、不要不急の買い物を控える動きなどから、「紳士服（同30.1%減）」、「婦人服（同37.3%減）」、「その他衣料（同46.4%減）」など、前年を下回りました。靴、バッグ等の「身の回り品（同34.5%減）」も前年を下回りました。化粧品等の「雑貨（同44.9%減）」は、インバウンド需要の減少により前年を下回りました。「食料品（同22.1%減）」は、来店客数の減少などから、前年を下回りました。

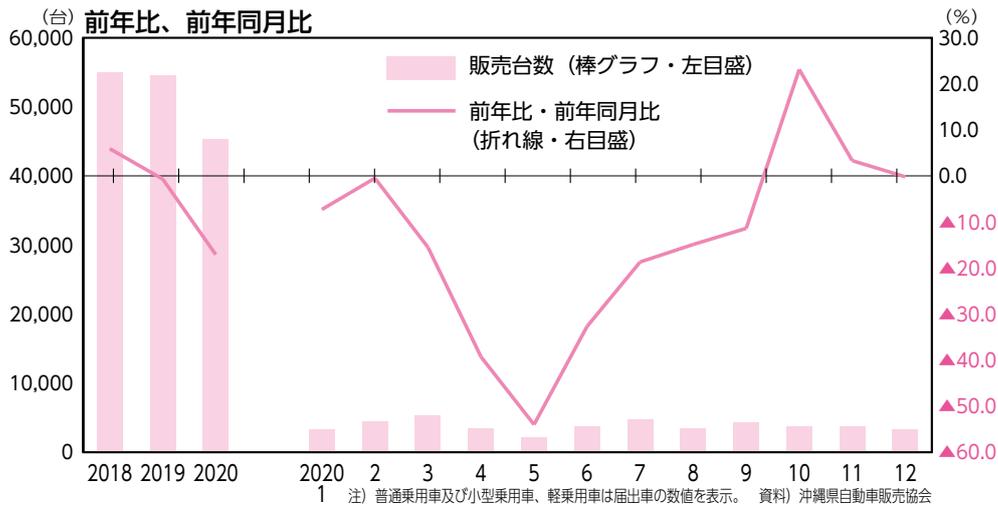


② 家電卸出荷額…消費税増税の反動などにより、前年を下回る。

家電卸出荷額は、定額給付金支給による一時的な需要増加があったものの、前年の消費税増税前の駆け込み需要の反動が見られ、前年を下回りました（同4.1%減）。品目別では、「エアコン（同5.2%増）」は、新型コロナウイルス感染症の影響拡大により在宅時間が増えたことなどから、前年を上回りました。一方、「テレビ（同7.0%減）」、「冷蔵庫（同4.6%減）」、「洗濯機（同0.8%減）」は、前年の消費税増税前の駆け込み需要の反動が見られ、前年を下回りました。



③ 新車販売台数…自家用車需要、レンタカー需要の減少などから、前年を大きく下回る。

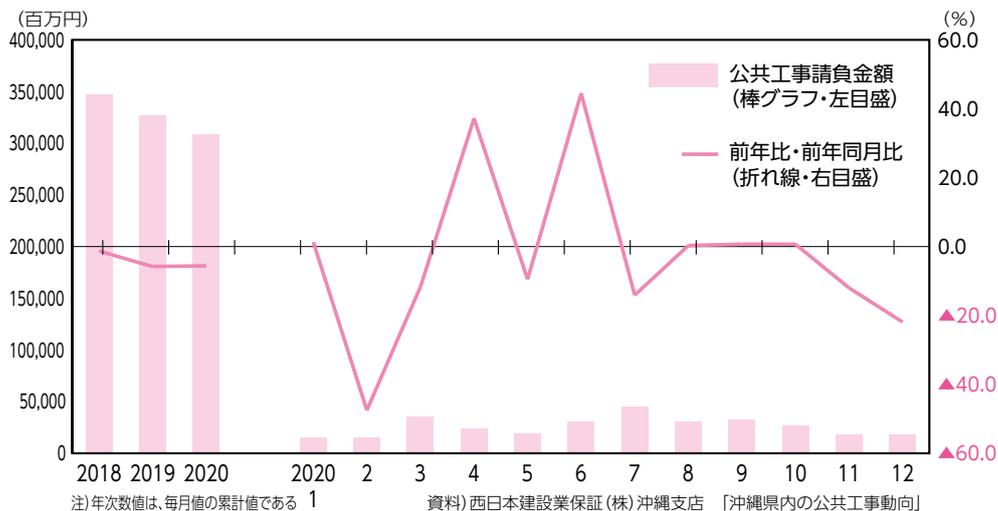


新車販売台数は、全体で45,206台（同17.1%減）となり、前年を大きく下回りました。車種別では、「普通乗用車（同18.8%減）」、「小型乗用車（同24.3%減）」、「軽乗用車（同14.4%減）」となり、自家用車需要、レンタカー需要ともに伸びず、前年を下回りました。

※普通乗用車及び小型乗用車は登録ベース、軽乗用車は届出ベースの数値を合算。

建設関連 (ふつう)

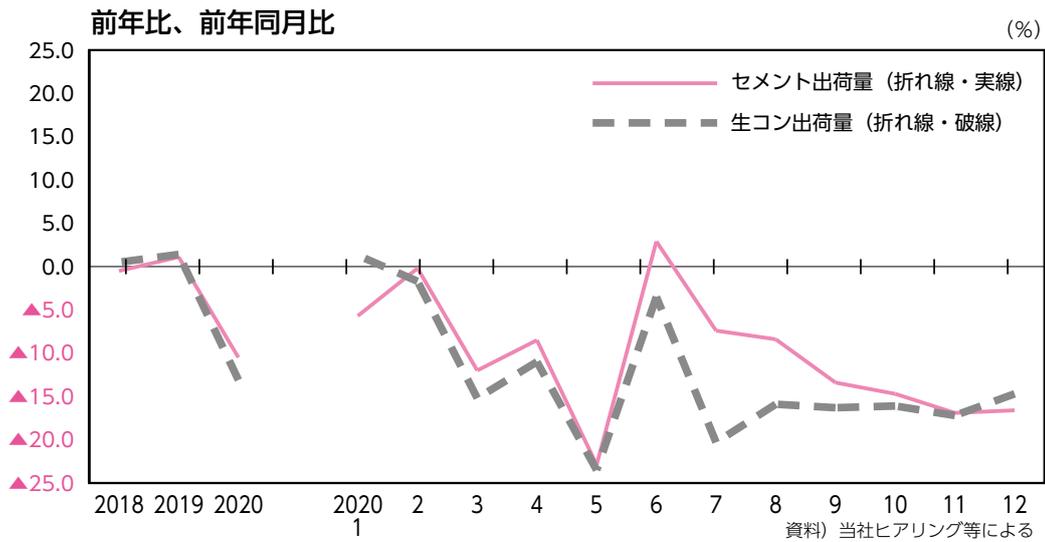
① 公共工事…公共工事請負金額は前年を下回る。



2020年の公共工事請負金額は、前年比5.6%減の3,081億1,100万円となりました。発注者別でみると、「その他の公共的団体（同56.8%減）」や「市町村（同6.0%減）」、「国（同4.3%減）」、「独立行政法人等（同2.0%減）」は前年を下回りました。一方、「沖縄県（同15.7%増）」は前年を上回りました。

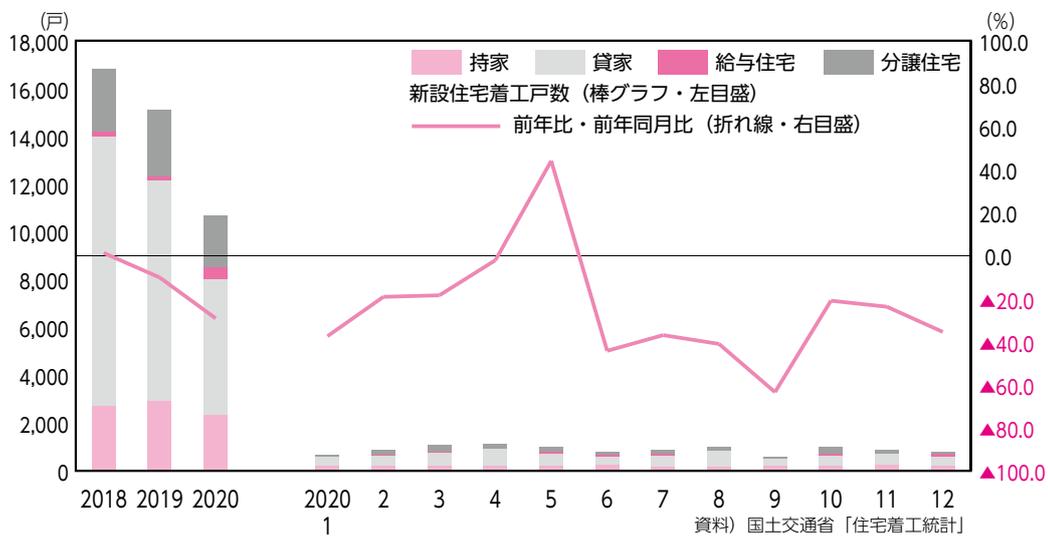


② 建設資材…生コン、セメントはともに前年を下回る。



建設資材関連では、**生コン**の出荷量は13.1%減と前年を下回りました。内訳では、公共工事向け出荷は前年より4.8%下回り、民間工事向け出荷は16.9%下回りました。**セメント**出荷量は10.5%減と前年を下回りました。

③ 新設住宅着工戸数…着工戸数は前年を下回る。



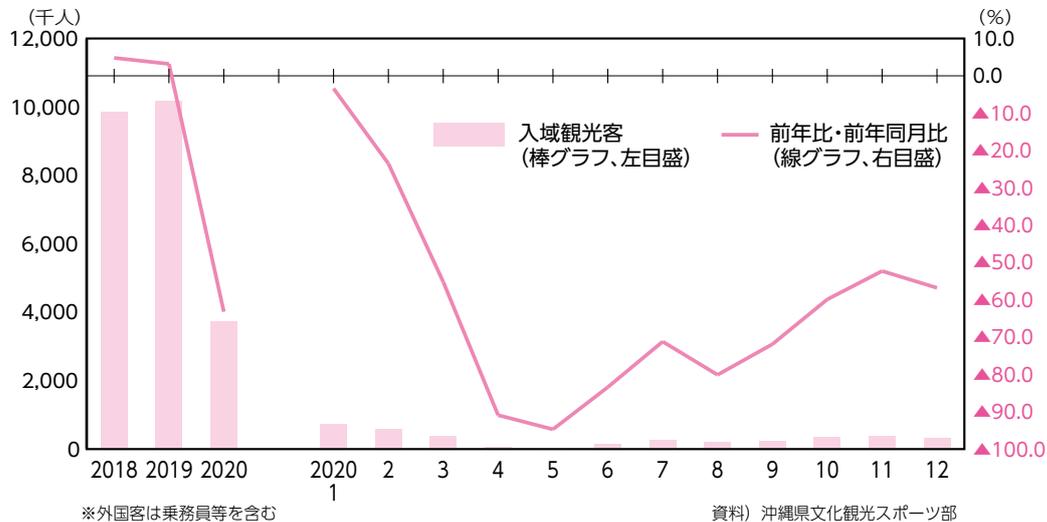
新設住宅着工戸数は、全体で10,703戸となり29.1%減と前年を下回りました。利用別戸数をみると、ウェイトの高い「貸家 (同38.4%減)」のほか、「分譲住宅 (同21.0%減)」や「持家 (同20.0%減)」は前年を下回りました。一方、「給与住宅 (同202.5%増)」は前年を上回りました。

観光関連

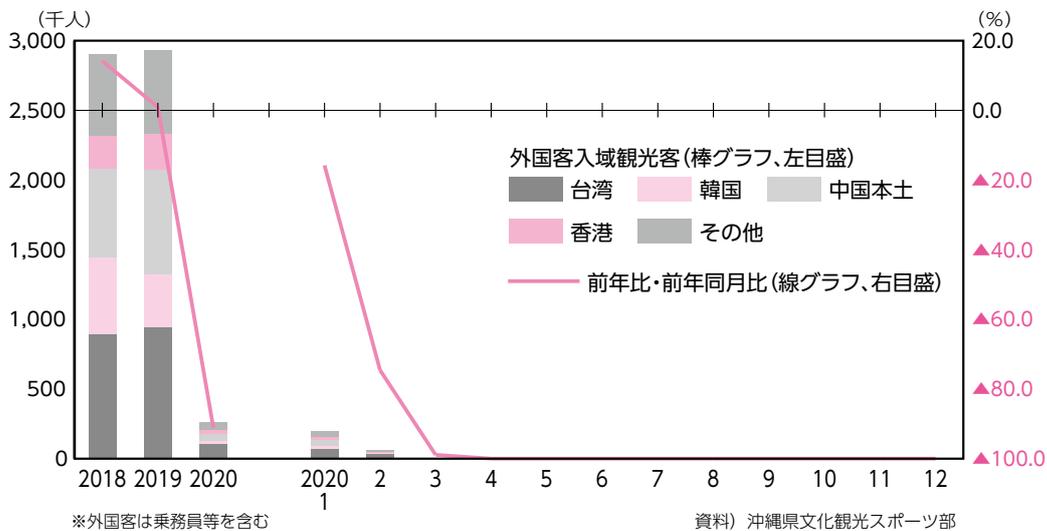


(悪い)

① 入域観光客数(国内客・外国客の合計)…9年ぶりに前年を下回る。



外国客 入域観光客数…9年ぶりに前年を下回る。



入域観光客数※は、373万6,600人(前年比63.2%減)となり、前年比△642万7,300人、減少数、減少率で過去最大となりました。内訳をみると、「国内客(同51.9%減)」は347.9万人となり9年ぶりに前年を下回りました。新型コロナウイルス感染症の影響による旅行自粛などから国内旅行需要が大幅に減少しました。4月、5月は国や沖縄県から緊急事態宣言が発出され、ゴールデンウィークを含む期間で、旅行自粛要請があったこと、また、例年ハイシーズンとなる8月から9月上旬にかけては、2度目の沖縄県緊急事態宣言が発出され、県外からの慎重な渡航が呼びかけられたことなどから、前年を大きく下回りました。

他方、「外国客(同91.2%減)」は、25.7万人となりました。前年来からの日韓情勢の悪化による訪日観光自粛に伴う韓国客の減少に加え、1月下旬からは新型コロナウイルス感染症の影響によりクルーズ船の寄港キャンセルが相次ぎ、3月下旬からは全ての航空路線が運休止し、急激に外国客が減少しました。

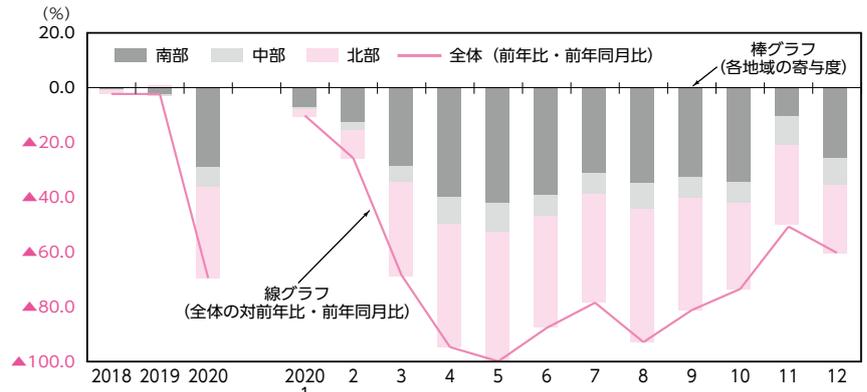
「台湾(同88.8%減)」 「韓国(同95.0%減)」 「中国本土(同93.6%減)」 「香港(同87.1%減)」

※外国客については、乗務員等を含む数値となっている。



② 観光施設入場者数…3年連続で前年を下回る。

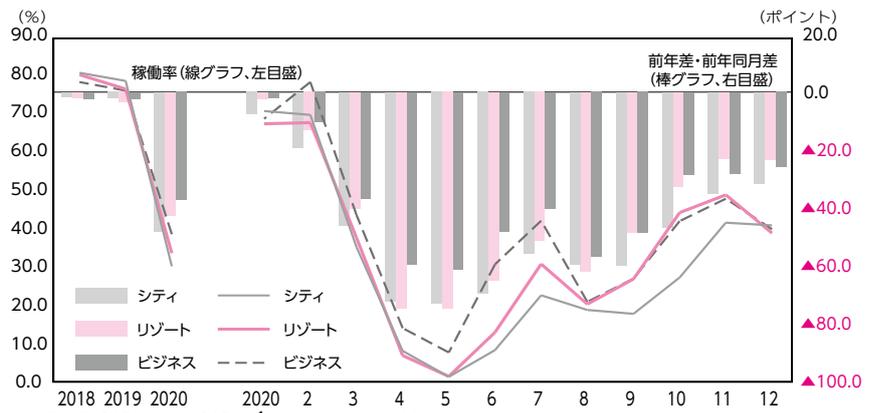
観光施設入場者数は、全体で前年比69.5%減少し、3年連続で前年を下回りました。地域別にみると、南部にある観光施設は前年比72.9%減（3年連続）、中部は同68.8%減（3年連続）、北部は同66.9%減（2年ぶり）と、前年を下回りました。



※調査対象施設数=南部 6、中部 5、北部 4 施設 ※2019年1月より、中部の対象施設が変更(6⇒5)となったことから、数値を遡って修正した。
※2019年3月より、北部の対象施設が変更(5⇒4)となったことから、数値を遡って修正した。グラフは全体の寄与度を表示。資料) 当社ヒアリング

③ ホテル稼働率…シティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルのすべてで前年を下回る。

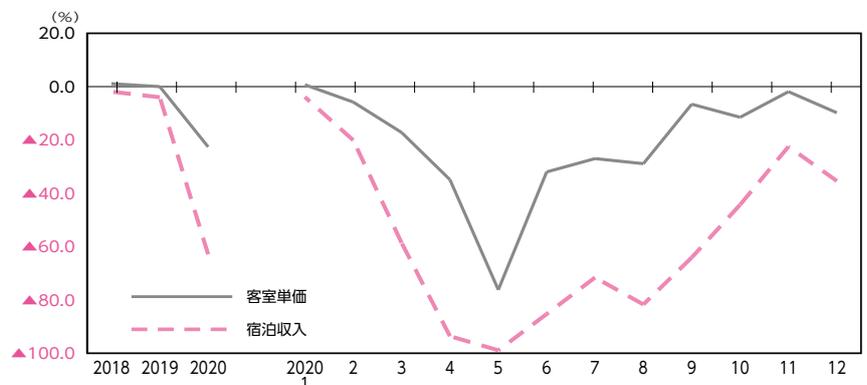
県内ホテル稼働率は、シティホテルが29.9%と前年差48.0ポイント減少、リゾートホテルが33.3%と同42.5ポイント減少、ビジネスホテルが38.2%と同37.2ポイント減少しました。



注) シティ8ホテル、リゾート18ホテル、1 ※2019年11月より、ビジネスホテル対象施設数(6⇒4)となったことから、数値を遡って改定した。
ビジネス4ホテル ※公表後に改定する場合があります。最新公表資料が確定値とする。資料) 当社ヒアリング

④ ホテル客室単価・宿泊収入…客室単価は前年を下回り、宿泊収入は下回る。

ホテル客室単価（シティ&リゾート）は前年比22.6%減と前年を下回りました。宿泊収入は同62.9%減と前年を下回りました。



※対象施設数:26施設(シティ8、リゾート18)、ビジネスは除く ※客室単価は26施設の平均値、宿泊収入は各施設の推計値の総額(稼働率及び客室単価より当社推計) ※公表後に改定する場合があります。最新公表資料が確定値とする。資料) 当社ヒアリング



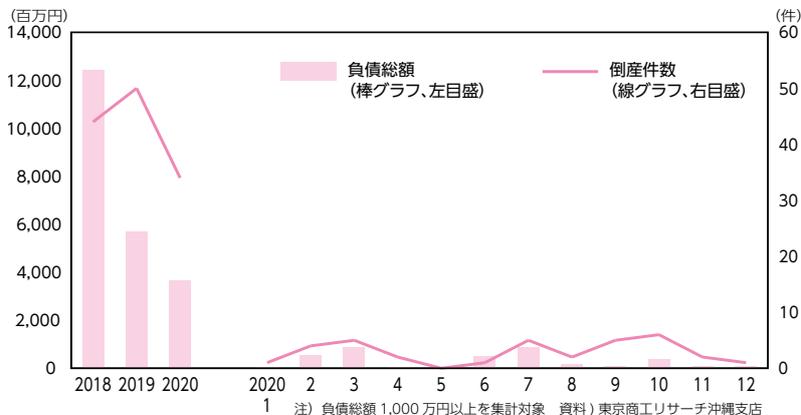
企業倒産



(やや良い)

① 企業倒産…件数、負債総額はともに前年を下回る。

2020年の**企業倒産件数**は、34件（うち10億円以上の大型倒産は発生なし）となり、前年より32.0%下回りました。**負債総額**は36億4,000万円となり、前年より36.3%下回りました。



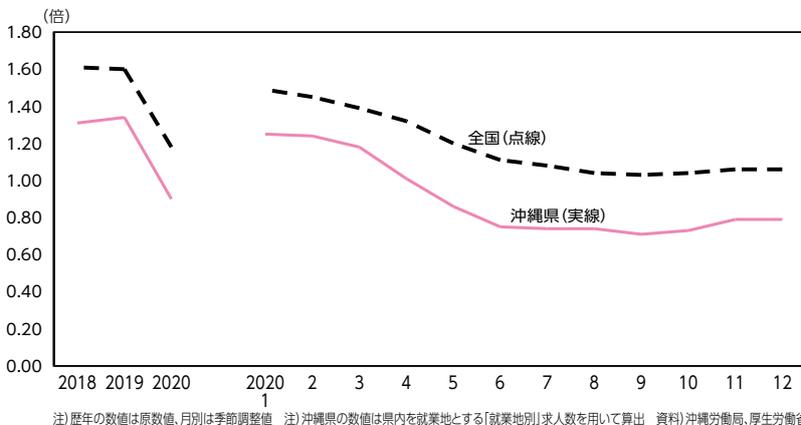
雇用関連



(やや悪い)

① 有効求人倍率…沖縄、全国はともに前年より低下。

2020年の**雇用状況**は、有効求人数（月平均）は前年比26.8%減の25,037人に対して、有効求職者数（同上）は前年比9.7%増の27,972人となり、有効求人倍率（同上）は0.90倍となり前年より0.44ポイント低下しました。



② 完全失業率…沖縄、全国はともに前年より上昇。

2020年の**完全失業率（原数値平均）**は、3.3%となり前年より0.6ポイント上昇しました。

